

I 2012年度認証評価における指摘事項(努力課題)

該当なし

II 2016年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2016年度大学評価結果総評】

SSIの学生の所属学部は、非常に多様なので、各学部の専門科目とSSI科目を関連させた履修について、支援していく必要がある。また、各自のスポーツの鍛錬と所属学部の学習とのバランスをとりながら、スポーツと専門分野の知識の習得を共に行う必要もある。

そのため、「授業支援システム」の活用と、「SSI卒業予定者向けアンケート」などの結果の分析について、SSI執行部・運営委員会で十分に検討し、文武両道の学生を育成するのに相応しい方法・システムの構築を期待したい。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】(～400字程度まで)

「授業支援システム」の活用と、「SSI卒業予定者向けアンケート」などの結果の分析に基づき、SSI執行部・運営委員会で十分に検討することで、SSIの特徴を踏まえた教育方法・システムの構築を目指している。

SSIの特徴を踏まえた教育方法・システムの構築を目指す上で、教員のさらなる尽力が必要である。しかし、SSIには専任教員がおらず、各学部に所属する各教員がSSI専任教員として、SSIに参画している。SSIのみならず、所属学部、ILAC、通信教育部、大学院などに関連した多重な業務をこなしているSSI専任教員の負担を軽減するための善後策を探索しつつ、SSIの学生により良い教育方法・システムを提供できるように努めたい。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

スポーツ・サイエンス・インスティテュート(以降、SSI)において、「SSI卒業予定者向けアンケート」をSSI執行部・運営委員会で十分に検討しつつ、「授業支援システム」活用と、SSIの特徴を踏まえた教育方法・システムの構築を目指している点は、高く評価できる。さらに、多様な業務を兼任するSSI専任教員の負担を軽減するための方策を探索し続ける姿勢も評価できよう。

教育方法・システムの構築を通して、SSIの学生に対して充実した教育を提供しつつ、教員の負担を軽減できることを期待する。

III 自己点検・評価

1 内部質保証

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム(質保証委員会等)を適切に機能させているか。

①質保証活動に関する各種委員会(質保証委員会等)は適切に活動していますか。 はい いいえ

【2016年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。

・これまでに、質保証活動に関する委員会は設置していない。しかしこれは、SSI運営委員会の規模が小さいためであり、委員全員が、質保証活動に関与しているためである。さらに言えば、SSI運営委員会には、各学部教授会から選出された専任教員(1号委員)だけでなく、SSI授業の担当教員(2号委員)が属していることから、運営委員会内で、質保証活動に関する議論は十分に行えていると考えている。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

【この基準の大学評価】

質保証活動にSSI運営委員会の全教員が関与していることは評価できる。SSI運営委員会の規模が小さく、質保証委員会を設置していないことも理解できる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

だが一方、執行部を中心として運営するであろう SSI 運営委員会の場で、客観的に SSI における質保証活動が実施できるのか、という懸念も残る。今後は客観性を持った質保証の在り方についての検討も期待したい。

## 2 教育課程・学習成果

### 【2017年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S  A B

(～400字程度まで) ※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

限られた総コマ数の中で、SSI 生に対して幅広い教育内容に触れる機会を提供するために、2015年度から、I・IIと2コマ分開催していた複数の科目について、教育内容を整理・集約することで、科目を1つに集約した(例「スポーツ方法論I・II」を「スポーツ方法論」に)。そのことによって、戦略的に総コマ数のゆとりを作った。そして、1)市ヶ谷キャンパスで開講しているSSI主催科目を(市ヶ谷キャンパスに比べると開講科目数が少ない)多摩キャンパスでも開講する、2)「スポーツ情報戦略論」など最新のスポーツ科学の知見に基づいた科目を開講するという、2つの展開を行っている。この展開は、SSIカリキュラムポリシーに沿ったものである。

なお従来、文学部の心理学科を除く5学科のSSI生は、入学直後に卒業論文の単位を履修するかを判断しなければならなかった。しかし、文学部SSI運営委員の要請によって、2015年度より、上級学年になってからその判断を行えるように、文学部5学科のSSIコースのカリキュラムが変更となった。

【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

2016年度第4回運営委員会において、各委員に対して、所属学部の学部主催科目をSSI専門科目として公開してもらえよう依頼した。

SSI学生の特殊性を考慮すべきであるという指摘に関連して、運営委員会での過去数年間の議論・承認を経て、「スポーツ実習(競技名)I～IV」(半期1単位、在学中に4単位まで履修可)に関するカリキュラム変更に向けた学則改定を実施した。具体的には、8つの競技に限定して開講されていた「スポーツ実習(競技名)」から競技名を削除して授業名を「スポーツ実習」とし、全ての競技に取り組むSSI生が履修できるようになる。そして、在学中に履修できる単位は2単位までとなる。

「スポーツ実習」の具体的な内容と、「スポーツ実習(競技名)」を閉講することによって生じた総コマ数のゆとりをどのように活用するかについては、2017年度の運営委員会で議論する予定である。

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

- ・SSI履修要綱・講義概要(シラバス)
- ・2016年度第4回SSI運営委員会議事録

②初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。

S  A B

(～400字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。

SSIの学生は、各学部所属しているため、各学部で行われている初年次教育に参加している。SSIにおいては、SSI基礎科目として開講されている7つの必修科目や、「スポーツ学入門」などが、初年次教育の役割を果たしている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・SSI履修要綱・講義概要(シラバス)

③学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。

S  A B

(～400字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

SSIの学生は、各学部所属しているため、各学部で行われているキャリア教育に参加している。キャリア教育としては、「アスリートキャリア論」や「アスリートのキャリアマネジメント」などを開講している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・SSI履修要綱・講義概要(シラバス)

2.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S  A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p><b>【履修指導の体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入学前の3月末に、SSI 新入生全員を招集し、SSI ガイダンスを行っている（2017年度入学性に対しては、2017年3月27日に実施）。</li> <li>・年度当初に行われる学部ガイダンス・学科ガイダンスでは、ほとんどの場合、ガイダンス終了後などに別途時間を設けて、SSI 生を対象にSSI に関するガイダンスを行っている。</li> </ul>	
<p><b>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>SSI ガイダンスに出席するよう、体育会各部の部長・監督に対して要請を行った。とりわけ、2016年度に出席者がいなかったラグビー部・弓道部・馬術部に対しては、執行部が個別に強く要請を行った。</p> <p>2016年度第4回運営委員会において、各委員に対して、所属学部のSSI 生に対してオリエンテーションやガイダンスを行うように依頼した。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生のSSI ガイダンスへの参加について（お願い）</li> <li>・SSI ガイダンスの開催について（ご案内）</li> <li>・2016年度第4回SSI 運営委員会議事録</li> </ul>	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S A B
<p>(~400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>3月末に行っているSSI ガイダンスにおいて、複数の教員（2016年3月27日は委員長・副委員長）が出席し、履修の際の助言を行ったり、授業への出席を強く促したりするなど、修学上の注意事項を説明している。</p> <p>SSI の学生は、授業実施日に公式戦が開催されることがあり、授業を欠席せざるを得ないことがある。その際は、大学の公式書類である「競技参加による欠席願」を授業担当教員に提出するよう指導している。</p> <p>授業担当教員は、当該学生の教育機会を保障するために、授業支援システムを利用した資料配布や課題の設定などを行っている。授業支援システムを活用できるようにするために、市ヶ谷・多摩キャンパスで開講されている必修科目（スポーツ心理学）において、独自の資料を作成して、授業支援システムの使い方を解説している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業の授業支援システムのホームページ</li> </ul>	
③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(~400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>授業支援システムを活用できるようにするために、市ヶ谷・多摩キャンパスで開講されている必修科目（スポーツ心理学）において、独自の資料を作成して、授業支援システムの使い方を解説している。また、授業支援システム（2016年度より本学で導入されたOATube）を利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業が行われている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業の授業支援システムのホームページ</li> </ul>	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【具体的な科目名および授業形態・内容等】</b> ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかの授業では、「ワールドカフェ」や「クロスロード」などのアクティブラーニングを採用している。</li> <li>・授業支援システム（2016年度より導入されたOATube）を利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業が行われている。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業の授業支援システムのホームページ</li> </ul>	
⑤それぞれの授業形態（講義、実習等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>(~400字程度まで) ※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>昨年度のSSI 科目担当者懇談会において、受講者数が教室の定員を超える授業があったと報告された。SSI は、学生数に鑑みると、開講できる総コマ数が少ないため、このような問題が生じやすい。</p> <p>そこで、SSI の学生が履修できる授業を増やすべく、2016年度第4回運営委員会において、各委員に対して、所属学部の学部主催科目をSSI 専門科目として公開してもらえよう依頼した。さらに、「スポーツ実習（競技名）」を開講することによって生じた総コマ数のゆとりを活用することを検討する予定である。また、必修科目・大規模授業において、SAを配置することも検討する予定である。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p><b>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 2016年度第3回運営委員会において、各委員に対して、所属学部の学部主催科目をSSI専門科目として公開してもらえよう依頼した。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2016年度第4回SSI運営委員会議事録</p>	
⑥シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。 ・全てのSSI主催科目のシラバスを執行部がチェックしている。改善すべき点が見つかった場合は、授業担当教員に対して個別に指摘を行っている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・SSI科目シラバス原稿作成の手引き ・法政大学シラバスWEB入稿管理システム教員向け入稿ガイド（全学部・大学院共通） ・SSIシラバスに関する疑義・指摘</p>	
⑦授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 ・年度末において、SSI主催科目担当教員による懇談会を開催している。 ・卒業を間近に控えた4年生を対象に、「SSI卒業予定者向けアンケート」を実施している。このアンケートの回収率は非常に高く、2016年度は、対象者204名中151名のデータを回収している（回収率74%）。このアンケート内で、SSI主催科目に関するアンケートを行い、各授業の内容に関する具体的な回答を得ている。アンケート結果は執行部で集約し、運営委員会において、運営委員に対してフィードバックを行い、意見交換を行っている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・SSI卒業予定者向けアンケート集計結果</p>	
2.3 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p><b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。 ・運営委員会において、全学およびSSIのGPCA平均集計表を配布している。 ・運営委員会において、成績評価方法に関する意見交換を行っている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・GPCA平均集計表（全学とSSI）</p>	
2.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布の状況を把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】</b> ※箇条書きで記入。 ・運営委員会において、全学およびSSIのGPCA平均集計表を配布している。 ・運営委員会において、成績評価方法に関する意見交換を行っている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・GPCA平均集計表（全学とSSI）</p>	
②学生の学習成果を把握・評価していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入（取組例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。 卒業を間近に控えた4年生を対象に、「SSI卒業予定者向けアンケート」を実施している。このアンケートの回収率は非常に高く、2016年度は、対象者204名中151名のデータを回収している（回収率74%）。このアンケート内で、SSIの授業に関するアンケートを行い、各授業の内容に関する具体的な回答を得ている。アンケート結果は執行部で集約し、運営委員会において、運営委員に対してフィードバックを行い、意見交換を行っている。</p>	
<p><b>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 2016年度第4回運営委員会において、各委員に対してSSI卒業予定者向けアンケート集計結果を回覧した。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・SSI卒業予定者向けアンケート集計結果</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

2.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を組織的・定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>執行部が招集した SSI カリキュラム委員会において、カリキュラム編成や授業担当者に関する意見交換を行っている。年度末において、SSI 主催科目担当教員による懇談会を開催している。</p> <p><b>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 2016年度第4回運営委員会の終了後に、SSI 科目担当者懇談会を行った。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2016年度第4回 SSI 運営委員会議事録</p>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S A B
<p><b>【利用方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>・シラバスの「学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき」の欄を記入するよう、各教員に促している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・各授業のシラバス</p>	

### (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

### (3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部で開講している科目(学部主催科目)をSSI専門科目として公開してもらえよう依頼した。その後、各学部の動向をフォローアップし、公開される学部主催科目を増やすことを目指す。</li> <li>・「スポーツ実習」の具体的な内容と、「スポーツ実習(競技名)」を開講することによって生じた総コマ数のゆとりをどのように活用するかについては、2017年度の運営委員会で議論する。</li> <li>・SSI卒業予定者向けアンケート集計結果について、さらに詳細な解析を行い、2017年度第1回の運営委員会においてその結果を配布し、運営委員会においてきめ細かな検討を行う。さらに、アンケート集計結果は、所属学部で周知してもらえよう依頼する。</li> <li>・授業支援システムの利用方法について、SSI授業担当教員間で情報交換を行う。</li> </ul>
---

### 【この基準の大学評価】

#### ①教育課程・教育内容に関すること(2.1)

<p>SSI学生の能力育成のため、SSI主催科目の見直しを行い、科目の整理・集約化を通して、多摩キャンパスでの開講をはじめ、最新のスポーツ科学に関する新しい科目の開講を進めてきたことは、高く評価できる。さらに、全ての競技に取り組むSSI学生が履修できるように、「スポーツ実習(競技名)」を開講し、「スポーツ実習」を開講するという取り組みも、評価できよう。こうした改善によって、新たに開講される科目を上手く活用し、さらなる教育効果が生まれることを期待する。</p> <p>初年次教育への配慮も、所属学部の初年次教育に加え、SSI基礎科目が開講されており、対応できているといえよう。高大接続については、今後の課題であろう。</p> <p>キャリア教育については、所属学部のキャリア教育に加え、SSI独自のキャリア教育科目が開講されており、対応できている。</p>
---

#### ②教育方法に関すること(2.2)

<p>SSI新入生については、入学前の履修指導のガイダンスの実施、そして2年生以降の学生に対しては、所属学部ガイダンスの機会を活用したガイダンスの実施が行われており、履修指導は適切である。さらに、出席しない学生が所属する体育</p>
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

会各部の部長・監督に個別に要請していることは、高く評価できる。学習指導についても、SSI にとって重要な授業支援システムの使い方を解説しており評価できる。

学習時間確保への方策については、欠席者や復習を行いたい学生に対して動画が提供されており、評価できる。動画に加えて、アクティブラーニングを採用する講義もあり、効果的な授業形態の導入も図られている。1 授業あたりの学生数については、受講人数の平準化に向けて開講科目数の増加や、SA の採用を検討しており、配慮されているといえる。

シラバス作成の検証、個別指導が執行部により行われており、評価できる。シラバスに沿って授業が行われているかの検証については、「SSI 卒業予定者向けアンケート」を利用し検証しているのは評価できるが、学期毎の授業改善アンケートを上手く活用できていないのは課題であろう。

### ③学習成果・教育改善に関すること (2.3～2.5)

成績評価については、SSI 運営委員会での GPCA 集計表の配布や、評価方法に関する意見交換が行われており、評価できる。学生の学習成果の把握・評価については、「SSI 卒業予定者向けアンケート」を利用し、運営委員会で共有し、意見交換を行っており評価できる。

学習成果の組織的・定期的検証、改善に向けた取り組みについては、SSI カリキュラム委員会を設置し、意見交換の実施や、SSI 主催科目担当教員による懇談会が行われており評価できる。だが、学生による授業改善アンケート結果が組織的に利用されているとはいえ、今後の課題であろう。

なお、同じ内容が記述されている箇所がいくつか見られるため、重複する内容を簡略化し、より各項目に適した記述となるよう望む。

## 3 教員・教員組織

### 【2017 年 5 月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

3.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【SSI 執行部の構成、基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程に則って、運営委員会を構成し、執行部を構成している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程

3.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部（学科）等のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400 字程度まで) ※SSI が提供するカリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。

SSI は学部横断的な仕組みである。そして、各学部より選出された、各学部のカリキュラムに精通した運営委員で構成される運営委員会によって、運営されている。執行部は、定例の執行部会議を毎月開催するだけでなく、必要に応じて臨時の執行部会議を開催し、運営委員会を主導している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・法政大学スポーツ・サイエンス・インスティテュート運営委員会規程

3.3 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）等内の FD 活動は適切に行なわれていますか。

S  A B

【FD 活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

・全ての SSI 主催科目のシラバスを執行部がチェックしている。改善すべき点が見つかった場合は、授業担当教員に対して個別に指摘を行っている。

【2016 年度の FD 活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

・各教員は、各学部において行われている FD 活動に参加し、必要に応じて、運営委員会においてフィードバックを行っている。

・2016 年度第 4 回運営委員会の終了後に、SSI 科目担当者懇談会を行い、授業に関する問題点や課題について意見交換を行った。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ SSI 科目シラバス原稿作成の手引き
- ・ 法政大学シラバス WEB 入稿管理システム教員向け入稿ガイド（全学部・大学院共通）
- ・ SSI シラバスに関する疑義・指摘

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・ SSI には専任教員がおらず、各学部にも所属する各教員が SSI 専任教員として、授業担当や学生の履修指導・学習指導に尽力している。所属学部の科目、ILAC 科目、大学院科目、通信教育部の科目など、様々な多くの科目を担当せざるを得ない状況にある。今後、SSI 専任教員の負担を軽減するための善後策を探索したい。

【この基準の大学評価】

SSI 運営委員会規定が設定されており、役割分担、責任の所在は明確にされているといえる。

FD 活動については、所属学部の FD 活動の共有をはじめ、SSI 科目担当者懇談会を開催し、授業の問題点や課題について意見交換を実施しており、評価できる。

IV 2016 年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準		教員・教員組織
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SSI において、より幅広い教育内容を提供するために、本学スポーツ健康学部に対して、SSI との連携強化を呼びかける。具体的には、SSI 主催科目の授業担当や、スポーツ健康学部の科目を SSI に公開することを検討するよう依頼する。2016 年度において、SSI の授業を担当しているスポーツ健康学部の専任教員は、17 名中 3 名にとどまっている。また、スポーツ健康学部の授業で、SSI 生に公開されている授業は存在+A8:C8 しない。</li> <li>・ SSI では、その性質上、アドミッションポリシーやディプロマポリシーを作成することはできないが、カリキュラムポリシーを策定することは可能であると考えられる。そこで、今年度は、SSI のカリキュラムポリシーを策定する。</li> </ul>
年度末報告	執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツ健康学部の執行部に対して、SSI との連携強化を呼びかけた。</li> <li>・ その結果、2016 年度において、SSI の授業を担当しているスポーツ健康学部の専任教員は、17 名中 3 名にとどまっていたが、2017 年度から 4 名に増えることが確定した（成田専任講師がアスリートキャリア論を担当する）。</li> <li>・ 本学スポーツ健康学部の執行部に対して、スポーツ健康学部の科目を SSI に公開することを検討するよう依頼した。</li> <li>・ SSI のカリキュラムポリシーを策定し、2016 年度第 2 回運営委員会で承認を得た。</li> </ul>
評価基準		教育課程・教育内容
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2017 年度からの ILAC のカリキュラム改革に伴い、各学部に対して、SSI 卒業所要単位変更の要求を行う。</li> <li>・ 「アメリカンフットボール部」「サッカー部」「水泳部」「テニス部」「バレーボール部」「ラグビー部」「陸上競技部」「バドミントン部」の 8 部に所属する SSI 生に対しては、SSI 主催科目として「スポーツ実習」を開講し、部活動と連動した単位認定の仕組みを整えている。しかし、他の部に所属する SSI 生については、そのような仕組みが存在しない。そこで今年度は、この実習科目の見直しについて、運営委員会において意見交換を行う。運営委員会で具体的な提案がなされ、その提案が運営委員会で承認された場合は、その提案に</li> </ul>

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		したがって SSI のカリキュラム改定を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>SSI 生が卒業するためには、最低でも SSI 科目を 44 単位履修する必要がある。44 単位という単位数に鑑みると、SSI で開講している科目の数はきわめて限定的である。そこで、SSI 生が履修できる科目数を増加させるために、各学部の学部主催科目を SSI 専門科目として公開してもらえよう、各学部に対して働きかける。なお、2016 年度に各学部で主催している科目のうち、SSI 専門科目として SSI に公開されている科目は、市ヶ谷キャンパス 40 科目（春学期科目 22 科目、秋学期科目 17 科目、年間科目 1 科目）、多摩キャンパス 60 科目（春学期科目 29 科目、秋学期科目 31 科目）である。一方 SSI では、SSI コースに所属していない学生に公開している科目も複数存在する（例「アスリートキャリア論」）。</li> </ul>
年度末報告	執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>2017 年度からの ILAC のカリキュラム改革に対して要求を行うための準備（要求書の作成）をしていたが、従来と SSI 卒業所要単位が変わらないことが判明したため、要求は行わなかった。</li> <li>「スポーツ実習」科目に関する提案について、過去数年間に引き続き、2016 年度第 1 回～第 3 回運営委員会において議論を行い、その後承認されたため、カリキュラム変更に向けた学則改定を実施した。</li> <li>2016 年度第 3 回運営委員会において、各委員に対して、所属学部の学部主催科目を SSI 専門科目として公開してもらえよう依頼した。</li> </ul>
評価基準		教育方法
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> <li>SSI ガイダンスに出席するように、毎年 3 月に開催される部長・監督会において注意喚起をしている。2016 年度の出席状況は 215 名中 177 名であった（出席率 82.3%）が、出席者のいない部が 3 部あった（ラグビー部、弓道部、馬術部）。そこで、この 3 部についてはとくに、新入生の出席を促すよう強く要請する。</li> <li>SSI コースを開講している全ての学部に対して、学部内で SSI に関するオリエンテーションやガイダンスを行うよう働きかける。</li> </ul>
年度末報告	執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 月に部長・監督会が開催されなかったため、メーリングリストを活用して、SSI ガイダンスに出席するよう、体育会各部の部長・監督に対して要請を行った。とりわけ、ラグビー部、弓道部、馬術部に対しては、執行部が個別に強く要請を行った。</li> <li>2016 年度第 3 回運営委員会において、各委員に対して、所属学部の SSI 生に対してオリエンテーションやガイダンスを行うよう依頼した。</li> </ul>
評価基準		成果
現状の課題・今後の対応等		運営委員会において、SSI 卒業予定者向けアンケート集計結果を配布して、意見交換を行っているが、今後は各委員に対して、この集計結果を各学部で周知してもらえよう依頼する。
年度末報告	執行部による点検・評価	2016 年度第 4 回運営委員会において、各委員に対して SSI 卒業予定者向けアンケート集計結果を回覧した。今後、さらに詳細な解析を行い、2017 年度第 1 回の運営委員会においてその結果を配布し、所属学部で周知してもらえよう依頼する予定である。

#### 【2016 年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

教員・教員組織における、SSI とスポーツ健康学部との連携強化という課題に対して、同学部より専担教員を 1 名増加できており、成果がみられる。なお、スポーツ健康学部執行部に対して同学部講義の SSI への公開科目依頼や、SSI カリキュラムポリシーの策定は大きな成果であるが、教員・教員組織での評価というより、次の教育課程・教育内容に適した内容にみえる。

教育課程・教育内容における、各学部による SSI への公開科目が不十分であるという課題に対しては、前述通り、スポーツ健康学部執行部への公開科目依頼が行われ、進展がみられる。さらに、競技によっては「スポーツ実習（競技名）」を履修できないという課題に対しては、全ての競技の SSI 学生が受講できる「スポーツ実習」が開講されることとなり、高く評価できる。

教育方法における、ガイダンスの出席率向上という課題に対して、出席率の悪い体育会各部の部長・顧問への個別の要請なども、評価できよう。

成果においては、SSI 卒業予定者向けアンケート集計結果について、委員の所属する各学部での共有という課題に対して、依頼を実施したことまでは確認できた。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

## 【大学評価総評】

法政大学の学生としての総合的な知識の修得とともに、文化と科学としてのスポーツの理解を図り、これからのスポーツ文化の担い手を育てるといふ、SSI の目的は達成できるといえよう。

自己点検・評価においては、SSI が現状の課題を的確に把握し評価を行い、資源や制度という制約条件の中で、具体的な改善・対策を計画し、着実に課題に対応できているという点は、高く評価できる。

こうした中、とりわけ、SSI の学生の実態や課題を踏まえた、科目の改編および充実をはじめ、授業支援システムの積極的活用、使い方解説、SSI 学生の所属学部でのガイダンス実施、そしてガイダンス出席率向上の方策は、他学部も参考にできる内容であろう。

一方、課題としては、科目改編等に伴って新たに発生する可能性のある課題の把握・評価の検証も必要であろう。そのため、学期ごとに把握できる「授業改善アンケート」の活用が望まれる。さらに、全学的課題としては、SSI 専任教員だけでなく、SSI 学生の所属学部は、各学部の初年次教育や専門科目と、SSI 科目と関連させた履修の支援の充実があげられよう。

今後さらに、授業支援システムや科目の改編などの教育方法・システムの構築を通して、SSI の学生に対して充実した教育を提供しつつ、同時に所属学部と SSI の兼任により多忙となる SSI 専任教員の負担を軽減できることを期待する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

I 2012年度認証評価における指摘事項（努力課題）

該当なし

II 2016年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2016年度大学評価結果総評】

国際日本学インスティテュートは、国際的な視野に立脚する日本学の研究を世界に発信することによって、大学院のグローバル化の推進に貢献するための独創的で柔軟な教学組織として大いに期待できる。約8割を留学生が占めているという実状もその意味で高く評価できる。国際性と学際性をバランスよく発展させ、多国籍の人材が日本学を修め、相応しい文化人としての付加価値を付与されて、国際社会へと還元していくことには教育上の負荷やそれに伴う課題があると思われる。日本語教育や英語教育、入試改革などすでに改善の取り組みは具体的に進んでいて、博士後期課程のコースワーク化を視野に入れたカリキュラムの改革も緒についていることから、今後のさらなる努力と成果に期待したい。また、定員管理と質保証活動については、専攻と同じ基準を適用する必要はないとはいえ、インスティテュートとしてのある程度明確な独自の方針は引き続き検討が望まれる。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

2017年度から博士後期課程のコースワーク化を開始した。定員管理については、国際日本学インスティテュートは人文科学研究科の5専攻と共同で定員管理を行っていることから、単独管理は困難であるが、国際日本学インスティテュートとしてできることを引き続き検討していく。例えば、超過分については、当該専攻での定員管理の徹底と同時に、現在の専攻体制の変更等を含めて検討していく必要があると考えている。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

2017年度からの博士後期課程のコースワーク化に向け、2016年度はさまざまな作業を遂行することで、国際日本学インスティテュートは「2016年度大学評価結果総評」に記された期待に十分応えており、たいへん評価できる。同インスティテュートは人文科学研究科5専攻との共同管理であることが強みであるが、同時に困難をも内包する。たとえば定員管理については5専攻との協議を進め、さらなる改革を期待したい。また教育質保証活動における独自の方針については継続的な検討が望まれる。とくに2016年度の年度末報告によればシラバスと授業との関連検証については、人文科学研究科や各専攻とも議論を深め、共通認識を醸成するとともに今後の組織的な取組に期待したい。

III 自己点検・評価

1 内部質保証

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証活動に関する各種委員会は適切に活動していますか。 はい いいえ

【2016年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。

・人文科学研究科および同研究科質保証委員会が担当している。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

国際日本学インスティテュートの質保証活動は、研究科6専攻のうちの4専攻が持ち回りでメンバーを出す同研究科質保証委員会、ならびに人文科学研究科が管轄している。2016年度は5回にわたって質保証委員会が開催された。

2016年度大学評価委員会総評においてはインスティテュートの質保証活動について「専攻と同じ基準を適用する必要はないとはいえ、インスティテュートとしてのある程度明確な独自の方針は引き続き検討が望まれる」と記されており、同

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

組織の教育や研究を現状以上に保証するための対応が期待される。

## 2 教育課程・教育内容

### 【2017年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

##### 【学位授与方針】

国際日本学インスティテュートでは、所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して修士の学位、博士の学位を授与する。

1. 一定以上の外国語能力を有していること
2. 国際的・学際的な視点からさまざまな課題を発見し解決することができる、一定以上の思考力を有していること
3. 日本に関わるさまざまな分野に亘って一定以上の専門知識ならび幅広い教養を修得していること
4. 修士学位については、国際日本学に関わって、自らの研究テーマに必要な研究方法を確実に身につけ、その研究テーマについての先行研究を十分に踏まえて、論理的かつ説得力のある文章による修士論文を取りまとめた点において、一定以上の学術的能力を有していること
5. 博士学位については、修士学位授与資格に加え、国際日本学に関わって、新たな知見を加えることにより当該の研究分野の発展に貢献する博士論文を取りまとめた点において、一定以上の学術的能力を有していること

①研究科（専攻）等として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい  いいえ

2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

##### 【教育課程の編成・実施方針】

国際日本学インスティテュートでは、学生自らの日本研究の推進、および学際的・国際的な視点の獲得が可能になるよう、必修科目、基幹科目、および関連科目（他専攻との共有科目）から成るカリキュラムが生まれ、実施されている。

必修科目の国際日本学演習では、指導教員となる国際日本学インスティテュート専任教員が、通常の授業のほかに丁寧な論文指導を行う。全員参加の国際日本学合同演習では、国際日本学の入門講座を受け、日本文化のさまざまな側面をゲスト講師から学び、さらに互いの論文テーマの中間発表や意見交換を行う。基幹科目には国際日本学に関わるさまざまな独自の科目を設置するとともに、英語・日本語それぞれの文章訓練を行う授業がある。関連科目には、学生自らの専門分野を極めるための授業に加え、幅広い知識を身につけることができる他専攻の授業が多数置かれている。

このように選択の自由のもとで幅広い知識を得ながら、高度な専門的論文を執筆することができるカリキュラムが提供されている。

①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい  いいえ

②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい  いいえ

##### 【根拠資料】※冊子名称やホームページURL等。

・法政大学ホームページ (<http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/jinbun/nihongaku/index.html>)

③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

S  A  B

(～400字程度まで) ※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。

国際日本学インスティテュートは大学院人文科学研究科に属し、自らも国際日本学インスティテュート運営委員会を組織してその運営を行っている。従って、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証はこれらの組織の中でその適切性が検証される。

【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

・国際日本学インスティテュートの3つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）の見直しを行った。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・法政大学ホームページ (<http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/jinbun/nihongaku/index.html>)

2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。</p> <p>修士課程ではコースワーク・リサーチワークが適切に組み合わせられたカリキュラムが編成されている。同課程では修士論文の提出が義務づけられ、そのための研究指導科目として「国際日本学演習Ⅰ・Ⅱ」「国際日本学合同演習」が1・2年各年次必修で開講されている。これが本インスティテュートにおけるリサーチワークに該当する。また、コースワークとしては、日本研究にかかわる多様な科目群が本インスティテュート独自に開講されているほか、本インスティテュートを開設する5専攻と合同で開講されている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年度『大学院講義概要（シラバス）』pp. 293～294</li> <li>・法政大学ホームページ (<a href="http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/jinbun/nihongaku/index.html">http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/jinbun/nihongaku/index.html</a>)</li> </ul>	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。</p> <p>2017年度からコースワーク、リサーチワークを組み合わせたカリキュラムを導入した。指導教員が担当する「国際日本学研究Ⅰ・Ⅱ」はリサーチワークのための科目であり、学生は3年間履修することにより、より精緻な論文作成の指導を受ける。一方、それ以外に8単位以上修得することが求められ、それは選択必修科目、さらには自由科目から修得する。これらは指導教員以外の教員が担当する科目から履修することになっており、幅広く高い専門性を身につけるコースワークの枠組みをとっている。</p>	
<p><b>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年度からコースワーク、リサーチワークを組み合わせたカリキュラムを導入した。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年度『大学院講義概要（シラバス）』pp. 293～294</li> <li>・法政大学ホームページ (<a href="http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/jinbun/nihongaku/index.html">http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/jinbun/nihongaku/index.html</a>)</li> </ul>	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>修士課程のカリキュラムは、学籍科目（4単位以上）、必修科目（12単位）、国際日本学基幹科目・国際日本学関連科目（8単位以上）から構成されている（修了所要単位30単位以上）。このうち、必修科目の「国際日本学演習Ⅰ・Ⅱ」「国際日本学合同演習」（1・2年各年次履修、計12単位）では、修士論文作成に向けた研究指導が行われている。また、本インスティテュート独自の開講科目である「国際日本学関連科目」、本インスティテュートを開設する5専攻と合同開講する「国際日本学関連科目」、学生の所属専攻の開講科目から履修する「学籍科目」を通じて、学生は日本研究にかかわる諸領域を幅広く、かつ専門的に学ぶことが可能となっている。</p> <p>博士後期課程では「国際日本学研究Ⅰ・Ⅱ」ほかの科目がコースワーク、リサーチワークに組み込まれてカリキュラム化されており、博士論文作成に向けた研究指導が行われている。</p>	
<p><b>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・博士後期課程は2017年度からコースワーク、リサーチワークを組み合わせたカリキュラムを導入した。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年度『大学院講義概要（シラバス）』pp. 292～294</li> <li>・法政大学ホームページ (<a href="http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/jinbun/nihongaku/index.html">http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/jinbun/nihongaku/index.html</a>)</li> </ul>	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。</p> <p>本インスティテュートでは在籍者の約9割が留学生であるため、教育のグローバル化は必須である。まず、修士課程には「日本語論文作成実習Ⅰ・Ⅱ」「日本語論文作成基礎AⅠ～Ⅳ、BⅠ～Ⅳ」を開講し、留学生の日本語作文力の指導に努めている。また、日本文学専攻と合同で、「日本文学・国際日本学基礎演習」「日本文学・国際日本学論文作成基礎実習」を開講し、主に研修生クラスを対象とした日本語・日本研究の基礎教育を行っている。一方で、「国際日本学論文作成実習（英語）Ⅰ・Ⅱ」を開講し、学生が英語で自身の研究を発表・論文化する力を育成するとともに、「Issues in</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

Japanese Studies I」を開講（本年度は休講）し、英語による日本研究の科目も設けている。さらに、2016年度からは人文科学研究科全体の外国語科目を改革し、英語をはじめとする諸外国語の科目が単位化されることになった。このほか、2016年度から地理学専攻のカリキュラムにある「現地研究」（国内外で2泊3日程度の調査旅行を実施する科目）を国際日本学インスティテュート学生にも履修可能にし、2016年度は台湾への現地研究を可能にした。さらに本学大学院が実施している海外における研究活動補助制度の活用を促し、海外における研究発表等を奨励している。

海外の大学との提携では、2017年度より上海外国語大学とのダブル・ディグリー・プログラムを実施するための協定を締結した。

**【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】** ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

2016年度から地理学専攻のカリキュラムにある「現地研究」（国内外で2泊3日程度の調査旅行を実施する科目）を国際日本学インスティテュート学生にも履修可能にした。2016年度は台湾への現地研究が実施され、数名の学生が参加した。

海外の大学との提携では、2017年度より上海外国語大学とのダブル・ディグリー・プログラムを実施するための協定を締結した。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2017年度『大学院講義概要（シラバス）』pp. 287～345
- ・法政大学ホームページ（<http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/jinbun/nihongaku/index.html>）
- ・法政大学（日本）と上海外国語大学（中国）との間の法政大学大学院人文科学研究科国際日本学インスティテュートと上海外国語大学日本文化経済学院との共同学位（ダブル・ディグリー）プログラムに関する協定書

2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S  A B

**【履修指導の体制および方法】** ※箇条書きで記入。

- ・運営委員長がオリエンテーションを通じて指導している。
- ・『大学院講義概要（シラバス）』中に「履修上の注意」の項目を設け、履修方法を明示している。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2017年度『大学院講義概要（シラバス）』pp. 292～294（履修上の注意）

②研究科（専攻）等として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。

はい いいえ

**【研究指導計画の明示方法】** ※箇条書きで記入（ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す（学位取得までのロードマップの明示等））。

- ・「国際日本学合同演習」における論文報告会の設定が、修士・博士論文作成に向けた過程に対応している。よって、同科目のシラバス（授業計画の項）が、本インスティテュートにおける研究指導計画を示している。
- ・博士論文作成については現在、研究指導計画（ロードマップ）を作成中で、2018年度の導入を目指している。

**【根拠資料】** ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。

- ・2017年度『大学院講義概要（シラバス）』p. 320（国際日本学合同演習）

③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。

はい いいえ

（～400字程度まで）※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。

修士課程においては、専担教員がそれぞれ「国際日本学演習Ⅰ・Ⅱ」を担当し、修士論文執筆に向けた研究指導を行っている。また、「国際日本学合同演習」では修士課程の全学生が履修し、研究内容の定期的な報告を行うとともに、学生・教員間の討議も行っている。

博士後期課程においては、専担教員が担当する「国際日本学研究Ⅰ・Ⅱ」等を通じて、博士論文執筆に向けた研究指導を行っている。また、博士後期課程の学生も「国際日本学合同演習」に定期的に参加し、研究の中間報告を行うことが義務づけられている。博士論文作成については現在、研究指導計画（ロードマップ）を作成中で、次年度の導入を目指している。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2017年度『大学院講義概要（シラバス）』pp. 295～319（国際日本学演習Ⅰ・Ⅱ）
- ・2017年度『大学院講義概要（シラバス）』p. 320（国際日本学合同演習）

④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

**【検証体制および方法】** ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。

- ・運営委員長による全シラバスチェックを実施している。

**【根拠資料】** ※ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・特になし	
⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。	
・特になし	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
2.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。	
・運営委員会において、成績評価方法を必要に応じて審議している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<b>【学位論文審査基準の明示方法】</b> ※箇条書きで記入。	
・オリエンテーション時に配布している。	
・指導教員を通じて配布している。	
<b>【根拠資料】</b> ※学位論文審査基準にあたる文書の名称および冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。	
・国際日本学インスティテュートにおける修士論文審査基準に係る規程	
・国際日本学インスティテュートにおける博士論文の審査基準に係る規程	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<b>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。	
・毎年、運営委員会において修士論文、博士論文の提出・合格状況を確認している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。 リサーチワークを重視する本インスティテュートでは、学位の水準を保つことは即ち学位論文の水準を保つことにほかならない。そのため、修士課程では「国際日本学合同演習」を1・2年次必修科目として、研究方法の共有化を図るとともに、修士論文執筆に向けた中間報告会を実施している。また、修士論文口述試験は全教員立ち会いのもと行い、成績評価は合議で判定している。 博士後期課程においても「国際日本学合同演習」における中間報告を義務化している。また、規程により、予備審査を実施することを定めるほか、提出資格（既発表論文数および査読付き雑誌発表論文数）を定めている。口述試験は公開制で実施し、透明化を図っている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
・国際日本学インスティテュートにおける修士論文審査基準に係る規程	
・国際日本学インスティテュートにおける博士論文の審査基準に係る規程	
・2017年度『大学院講義概要（シラバス）』p.320（国際日本学合同演習）	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<b>【修士】</b> （～400字程度まで）※責任体制および手続等の概要を記入。 修士論文の作成指導は指導教員によって行われるが、修士論文提出後の評価は、主査、副査の複数で行われる。その後、学位授与の決定は、他の教員を含めて行われ、最終的な決定は国際日本学インスティテュート運営委員会で行われる。	
<b>【博士】</b> （～400字程度まで）※責任体制および手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入してください。 学位規則のとおり。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<b>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・大学全体として、卒業・修了時に「卒業生カード」を通じて進路を申告させている。ただし、母国に帰国する留学生は、帰国後に就職活動を行うため、その進路をすべて把握することは困難である。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

①学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。

S  A B

(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入(取り組み例: アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。

本インスティテュートでは学生の学習成果は学位論文を通じて測定している。そのため、修士論文の最終試験(口述試験)は全教員立ち会いのもとで実施し、学生の到達度を確認している。また、論文執筆の過程で「国際日本学合同演習」の中で中間報告会を定期的に設けて、こちらへも全教員が参加し、学生の学習成果について確認を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

2.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学習成果を組織的・定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S  A B

(～400字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入

運営委員会において、学生の学習状況に照らして論文指導体制、授業のあり方について、運営委員会を中心に必要に応じて審議している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。

S A  B

(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。

・特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

## (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

## (3) 現状の課題・今後の対応等(必須項目)

※(1)および(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・2・4・⑤の「授業がシラバスに沿って行われているかの検証」については、少なくとも論文指導が中心となる演習科目については、逆にシラバスから離れて柔軟に指導対応することが必要ではないかという意見が強く出されていることを述べておく。
- ・博士後期課程では今年度からコースワーク、リサーチワークに従ったカリキュラムが実施されており、その状況を見守る必要がある。
- ・博士論文作成に向けた研究指導計画(ロードマップ)を作成中であり、次年度からの運用を目指している。
- ・授業改善アンケートの運用の仕方について検討を進めたい。

## 【この基準の大学評価】

### ①方針の設定に関すること(2.1～2.2)

国際日本学インスティテュートでは修得すべき学習成果や、その達成のための諸条件が適切に設定され、それらは学位授与方針に明示されている。また同方針は大学ホームページや大学院入学案内などに記載することにより周知・公表が行

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

われている。

学位授与方針、学習成果、教育課程の編成・実施方針は密接に関連づけられ一貫性をもって構築されている。とくに国際日本学合同演習や国際日本学論文作成実習（英語）、日本語論文作成基礎科目など、学位授与のための基盤を堅固にし、その上で専攻横断的な専門性を養っていく教育課程の編成は順次性と体系性を実現し、優れている。

## ②教育課程・教育内容に関すること (2.2)

国際日本学インスティテュートでは、かねて準備が進んでいた諸改革（博士後期課程の単位制導入、すなわち同課程「論文指導科目」12単位以上履修、指導教員以外が担当する選択必修科目8単位履修、合計20単位以上履修することを修了条件に加えることなど）により、指導教員主導となるリサーチワークと、幅広く高い専門性を身につけるコースワークが修士・博士両課程において実現されたことは高く評価できる。

在籍者の8割を占める留学生が研究科全体を鼓舞し、グローバル化を推進していることは言を俟たない。2016年度からは地理学専攻の「現地研究」を同インスティテュート学生にも開くなど、5専攻が共同で開設する強みが活かされている。

ダブル・ディグリー・プログラムを実現するため2016年度には上海外国語大学との協定を締結するなど、グローバルな視点から専門分野の高度化が目指されている点もたいへん優れている。

## ③教育方法に関すること (2.4)

履修指導は国際日本学インスティテュート運営委員会の委員長がオリエンテーションを通じて行い、また『大学院講義要項(シラバス)』<履修上の注意>においても明示されている。修士課程に在籍する学生が2年間にわたって受講する「国際日本学合同演習」のシラバスが、同インスティテュートの「研究指導計画」に該当し、学生はそれをあらかじめ知ることができる。また博士後期課程の博士論文作成のための研究指導計画（ロードマップ）は、2018年度導入を目指して作成中であるので早々に完成されることを期待したい。

研究指導、学位論文指導は修士課程においては上記「国際日本学合同演習」、博士後期課程においては「国際日本学研究I/II」等を通じて適切に行われている。

国際日本学インスティテュート運営委員会の委員長がすべてのシラバスを確認している。授業とシラバスの連動については、科目に応じて一定の柔軟性が担保されることを前提としつつ、冒頭の「2016年度大学評価委員会の評価結果への対応」への所見欄に記載したとおり、今後とも検討が望まれる。

## ④学習成果・教育改善に関すること (2.5～2.7)

国際日本学インスティテュートでは、同運営委員会が必要に応じて成績評価方法を審議しており、よって成績評価と単位認定の適切性は確認されている。

学位論文審査基準を示す規定はオリエンテーション時や指導教員を通じて配布され、学生はあらかじめ知ることができる。

学位授与状況は同運営委員会で把握されている。

学位の水準を保つために修士課程では必修科目（「国際日本学合同演習」）が設けられ、また博士後期課程においては「国際日本学合同演習」の2回分で中間報告を義務化するなど、個別指導にとどまらない統一的な指導への取組は高く評価できる。

学位授与に係わる責任体制と手順は要項ならびに学位規則において明らかである。

学生の就職状況の把握に関しては、外国人留学生が多数を占めることもあり、現状では個々の教員に任されている。

学習成果は適切に把握・評価されており、その検証や改善に向けた取組も同運営委員会を中心に行われている。

「2016年度 年度末報告」によると、今後はすべての基幹科目で授業改善アンケートが実施されることになり、その踏み込んだ取組は高く評価される。一方アンケート結果の組織的な利用を検討する必要性については2016年度から大学評価において指摘されているので、引き続き対応が望まれる。

## 3 学生の受け入れ

### 【2017年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

##### 3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

##### 【学生の受け入れ方針】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

国際日本学インスティテュートは、強い研究意欲と、一定以上の学力および語学力を有する者に、年齢、性別、国籍を問わず、他分野・他領域の出身者、留学生や社会人も含め、広く門戸を開放している。具体的な受け入れ資格は、次の通りである。

(修士課程)

1. 国際日本学研究への強い意欲を有していること
2. 修士論文執筆に必要な思考力、読解力、論理的表現力、そして国際日本学研究を進める上で必要な語学力を身につけていること

(博士後期課程)

1. 国際日本学研究をさらに推進しようとする強い意欲を有していること
2. 博士論文執筆に必要な高度な思考力、批判的読解力、論理的表現力、そして国際日本学研究をさらに推進する上で必要な語学力を身につけていること
3. 国際日本学の関連分野に新たな知見を加えることが期待されるだけの研究実績を有していること

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 学生の受け入れ方針に基づき学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

①学生の受け入れ方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。

S A B

(～200字程度まで) ※取り組み概要を記入。

入学者選抜制度・体制は毎年、運営委員会で議論し、課題に対応している。その結果、これまで、入試回数の変更、日本語試験の充実化、中国現地入試の導入・拡大、中国現地入試の受験資格の拡大、ESOP受講者対象研修生入試の導入等を実施してきた。一般入試での日本語試験の充実化や、運営委員会全員参加の面接試験、最終の可否判定の全教員参加は、入学者選抜の公正性を保つものである。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

3.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

社会に向けて定員を14名と公表している。しかし、本インスティテュートは人文科学研究科5専攻が共同で開設するコースであり、学生はいずれかの専攻に所属することになる。したがって、実際には定員は専攻ごとに管理されることになる。現在、本インスティテュートへの入学者は毎年20～30名で推移しているが、専攻ごとに見た場合、超過・未充足が生じている。未充足分については、本インスティテュートでも入試改革や、進学ミニ講演会の開催などにより、充足に努めている。超過分については、当該専攻での定員管理の徹底と同時に、現在の専攻体制の変更等を含めて検討していく必要があると考えている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

3.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

運営委員会において検証を行っている。その結果、これまで入試回数の変更、日本語試験の充実化、中国現地入試の導入・拡大、中国現地入試の受験資格の拡大、ESOP受講者対象研修生入試の導入等を実施してきた。特に一般入試での日本語試験の充実によって、入試の客観性がより増加したと考えている。また中国現地入試の導入・拡大、優秀な学生の確保に貢献していると考えている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

## (2) 特記事項

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・2017 年度から中国現地入試の提携校が 1 校 (西南民族大学) 増える。その実施を見守る必要がある。</li> <li>・社会に向けて公表している定員 14 名に対して、実際の入学者が 20～30 名となっている。人文科学 5 専攻の定員と連動しているため、単純に定員まで入学者を減らすのではなく、5 専攻の定員管理の議論の中で解消する必要があると考える。</li> </ul>
---

【この基準の大学評価】

<p>国際日本学インスティテュートでは、求める学生像ならびに修得しておくべき知識等の内容や水準が、学生の受け入れ方針として設定・明示されている。</p> <p>選抜制度・選抜体制については同運営委員会で毎年検証・議論し、その結果をもとに改善・向上に向けた対応を行っている。選抜は運営委員会全員が参加する面接試験や、インスティテュート全教員が参加する最終合否判定により、公平に実施されている。</p> <p>学生は人文科学研究科のいずれかの専攻に所属するため、公表されている定員と実際の入学者数の間に齟齬が生じることは理解できるものの、専攻ごとの定員設定や管理の妥当性を検証し、具体的な方策を立てて改善する必要がある。</p>
--

4 教員・教員組織

【2017 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	
①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。	はい いいえ
<p>【執行部の構成、インスティテュート内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際日本学インスティテュート運営委員会を設置している (インスティテュートの管理運営に関する事項を審議。運営委員会には委員長をおく)。</li> </ul> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法政大学大学院人文科学研究科国際日本学インスティテュート運営委員会規程</li> </ul>	
4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	
①研究科 (専攻) 等のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。	はい いいえ
<p>(～400 字程度まで) ※カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。</p> <p>本インスティテュートは人文科学研究科のうち、哲学・日本文学・英文学・史学・地理学の各専攻が共同で開設する日本学研究のコースである。教員は専担・兼担・兼任の 3 種に分かれる。専担教員は上記 5 専攻のなかから、思想・文学・芸術・サブカルチャー・言語・歴史・民俗・社会・地理・環境等の面から日本研究に携わる 20 名の教員により構成される。専担教員は修士課程の演習科目「国際日本学演習 I・II」(必修科目)を担当するほか、修士・博士論文の指導を行う。兼担教員は上記 5 専攻と他研究科・学部、研究所に所属する教員 14 名から成り、兼任教員は本学以外より委嘱した 39 名から成る。兼担・兼任教員は、本インスティテュートの基幹科目・関連科目 (必修選択科目)を担当し、主に人文科学の諸領域を基盤とした日本研究について教授するほか、留学生の日本語教育も担当している。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017 年度『大学院講義概要 (シラバス)』p.6 (国際日本学インスティテュート教員組織)</li> </ul>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

2016年度研究指導教員数一覧（専担）（2017年5月1日現在）

研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数
修士	19	18
博士	21	20
計	40	38

4.3 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①研究科（専攻）等内のFD活動は適切に行われていますか。

S  A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

・国際日本学インスティテュート運営委員会

【2016年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- ・2016年5月14日、大学院棟、テーマ：授業改善アンケートの実施について、チューター制度を含めた研究指導体制、論文審査、修士論文の評価基準について、参加者5人
- ・2016年7月6日、大学院棟、テーマ：3つのポリシーの見直し、参加者記録なし
- ・2016年10月9日、大学院棟、テーマ：学生の受講態度に関する意見交換、参加者14人
- ・2017年1月25日、大学院棟、テーマ：日本語のクラス編成について、参加者記録なし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

国際日本学インスティテュートは同運営委員会が管理運営し、教育組織としての役割分担ならびに責任の所在は運営委員会規定において明示されている。日本研究に携わる20名の専任教員、14名の兼任教員、39名の兼任教員による構成は、同インスティテュートのカリキュラムを担当するにふさわしいことが認められる。

同委員会はFD活動も担っており、2016年度は4回にわたる意見交換や討議の場が設けられた。昨年度と比較して活動は活発であり、教育の組織的な質保証に寄与している点で評価できる。ただし、参加者数に多寡が見られるほか、参加者記録がない回があるなど、FD活動を組織的・継続的に実施する上で改善が望まれる。

5 学生支援

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①研究科（専攻）等として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。

S  A B

(～400字程度まで) ※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。

本インスティテュートでは、「日本語論文作成実習Ⅰ・Ⅱ」「日本語論文作成基礎AⅠ～Ⅳ、BⅠ～Ⅳ」を開講し、留学生の日本語作文能力の強化に努めている。また、日本文学専攻と共同で、研修生クラスの学生を対象に「日本文学・国際日

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

本学基礎演習」「日本文学・国際日本学論文作成基礎実習」を開講し、調査・研究方法の指導、日本語作文の指導も行っている。授業以外では、本学大学院が実施しているチューター制度、諸外国語による論文等校閲補助制度を活用し、日頃の学習活動から修士論文執筆まで円滑に進むよう支援している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2017年度『大学院講義概要（シラバス）』p.292、pp.321～331
- ・法政大学ホームページ（<http://www.hosei.ac.jp/gs/gakusei/tutor/>）
- ・法政大学ホームページ（[http://www.hosei.ac.jp/gs/gakuhi/koetsu\\_hojo/](http://www.hosei.ac.jp/gs/gakuhi/koetsu_hojo/)）

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし
-------

【この基準の大学評価】

国際日本学インスティテュートにおいて、2016年度から留学生の日本語論文作成能力を段階的に高めるための科目「日本語論文作成実習 I/II」「日本語論文作成基礎 AI・AII・AIII・AIV」「日本語論文作成基礎 BI・BII・BIII・BIV」を新たに設けたことは高く評価できる。履修状況や効果を把握することで、さらなる科目内容の充実や改革に期待したい。

本学大学院が設けているチューター制度、諸外国語による論文等校閲補助制度も活用されており、支援は適切に行われている。

IV 2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準		教育課程・教育内容
現状の課題・今後の対応等		2017年度に博士後期課程にコースワーク制（単位制を含む）を導入する予定。カリキュラムはすでに決定している。
年度末報告	執行部による点検・評価	2017年度より博士後期課程に単位制によるコースワークが導入される。
評価基準		教育方法
現状の課題・今後の対応等		授業がシラバスに沿って実施されているかの検証、学生による授業改善アンケートの結果の活用についての検証が必要である。
年度末報告	執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業がシラバスに沿って実施されているかの検証については、運営委員会で検討した結果、こうした検証を行うこと自体が大学院教育、特に論文指導科目に馴染まないという見解が大勢を占めた。</li> <li>・授業改善アンケート結果の活用のために、手始めとして授業改善アンケートをすべての基幹科目で実施することとした。</li> </ul>
評価基準		成果
現状の課題・今後の対応等		学生の就職・進学状況の組織的な把握の方策の検討が必要である。
年度末報告	執行部による点検・評価	検討の結果、国際日本学インスティテュートのような、助手など教員へのサポート体制のない組織にとって、こうしたデータの組織的な把握と管理には無理があり、大学の担当部局に任せる以外はない、との結論に至った。
評価基準		学生の受け入れ
現状の課題・今後の対応等		本インスティテュートの学生を含めると、各専攻で定員の超過・未充足が生じる。そのため、各専攻における定員の設定・管理の妥当性を検証し、改善する必要がある。
年度末報告	執行部による点	各専攻における定員の超過・未充足について、人文科学研究科を全体として考える必要があ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

報告	検・評価	ると考え、2016年12月の人文科学研究科教授会にて、そうした旨の問題提起を行った。
----	------	--

### 【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

博士後期課程にコースワーク制（単位制を含む）が導入されたことは高く評価される。今後は経年的に効果検証を行い、コースワークのいっそうの充実が望まれる。

授業とシラバスの連動については、科目に応じて一定の柔軟性が担保されることを前提としつつ、冒頭の「2016年度大学評価委員会の評価結果への対応」所見欄に記載したとおり、以後も検討されることを期待したい。

今後はすべての基幹科目で授業改善アンケートが実施されることになり、また博士論文作成に向けた研究指導計画（ロードマップ）が作成中である。そうした踏み込んだ取組は高く評価される。

### 【大学評価総評】

2011年度に専攻横断的な形で正式に移管されて6年以上が経過し、その間にもグローバル化が進み、学際性に富んだ日本研究の拠点としての国際日本学インスティテュートの役割はいよいよ重要性を増している。海外への情報発信を含めた幅広い広報活動により、その優れた教育課程や教育内容を周知するなど、いっそうの発展を注視したい。内部質保証の組織的な取組、シラバスと授業の連関、授業改善アンケート結果の組織的な活用、定員管理などの課題は依然存在しており、引き続き対応が求められる。一方で2018年度導入を目指して博士後期課程の博士論文作成のための研究指導計画（ロードマップ）を作成し、日本語論文作成能力を段階的に高めるための科目を開設するなど、研究・教育効果の向上にむけた積極的な取組は高く評価される。人文科学研究科全体と相互に補完し合いながら、本インスティテュートの特色を十分に活かしていくことが今後とも期待される。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

I 2012年度認証評価における指摘事項（努力課題）

該当なし

II 2016年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2016年度大学評価結果総評】

連帯社会インスティテュートは、2015年度より開始されたにも関わらず、地域と連携した研究フィールドでのリサーチワークや、各分野の高度な専門知識をもつ外部講師による研修など、理念・目的に掲げる、政策構想力と実践力を兼ね備えた「連帯社会」を築く人材育成に向けたプログラムが、着実に実施できている点は、高く評価できる。

また、こうしたプログラムのもと、インスティテュートの募集人員に対し院生の確保ができていますので、社会において、インスティテュートの意義が十分に理解されているといえよう。

今年度、こうしたプログラムの実施を通して初めての学位が授与される予定であるが、インスティテュート初の学位論文の質が、理念・目的に応える水準となることを期待する。同時に、プログラム全体の検証も行われ、より高い水準のプログラムへと改善されていくことを望む。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

今年度、初めて修士号を授与することとなった。少人数のため修士論文執筆にあたって各教授は懇切丁寧な個人指導を行うことができ、学生全員が修士号にふさわしい論文を執筆できた。極めて優秀な論文を執筆した学生も各プログラムに1人合計3人いた。3つのプログラムを横断的に学習させ、それを前提に専門性を高めるという教育方針が一定程度の成果を収めた結果だと思われる。これに満足せず、さらに授業、論文指導の質を高めていきたい。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

連帯社会インスティテュートは、2015年度より設置されたにも関わらず、「公共の新たな担い手となる人材の育成」という明確なアドミッション・ポリシーのもとで、NP0・社会的企業研究、協同組合研究、労働組合研究の三つのプログラムを柱としたきめ細やかな教育を行っている。

2016年度の大学評価では、初めての学位論文の質が理念・目的に応えた水準になることに加え、プログラム全体が検証され、より高い水準へと改善されることへの期待が述べられていた。連帯社会インスティテュートでは、2016年度に13名全員が丁寧な個人指導を経て修士の学位を授与され、しかも極めて優秀な論文を執筆した学生が各プログラムに1名、計3名いたことは高く評価できる。さらにシラバスや修士論文作成スケジュールについては、専任教授の間でシラバスチェックを行い、学生に対する授業改善アンケートに基づいて、改善への様々な取り組みが行われており、高く評価できる。

III 自己点検・評価

1 内部質保証

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証活動に関する各種委員会は適切に活動していますか。 はい  いいえ

【2016年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。

・正式な形では立ち上げていない。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートは2015年に開始され、また専任教員3名、専担教員4名という構成であるため、内部質保証委員会は立ち上げられていない。しかし、授業改善のための詳細なアンケート調査を行い、授業担当者にその結果を伝

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

える等、運営委員会が実質的に質保証活動を行っている。

## 2 教育課程・教育内容

### 【2017年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	
<b>【学位授与方針】</b> 学問的知見を踏まえつつプロフェッショナルとして公益に資する政策の形成・実践を担う人材を育成するために具体的な運動論や手法に関する科目を配置し、他方で実際に社会の最先端で活動する専門家と知的に交流する機会を作る。 修士課程に2年以上在学し、基礎科目10単位を全員が修得し、NPOプログラム、協同組合プログラム、労働組合プログラムのプログラムごとに設定されている必修科目10単位、選択必修科目4あるいは6単位を含む36単位を修得し、かつ修士論文の審査に合格した者に学位を授与する。誰もが多様な働き方を通じて社会参加し自己実現可能な民主的会社とするためにNPO/NGOや社会的企業、協同組合、労働者福祉事業団体、労働組合などに求められる社会的役割を認識し、解決すべき課題を発見し、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・発信する能力、それらを実現・解決するための人的・組織的ネットワークを形成する技能、そしてその基盤となる高い志を育成することを目指す。	
①研究科(専攻)等として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件)を明示した学位授与方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	
<b>【教育課程の編成・実施方針】</b> NPOプログラム、協同組合プログラム、労働組合プログラムの3つのプログラムごとに、全員が受講する基礎科目、プログラムごとに設定される必修科目、選択必修科目を定め、選択科目としては各プログラムにふさわしい科目を提示し、幅広い専門科目から受講科目を選択する際の一助としている。	
①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<b>【根拠資料】</b> ※冊子名称やホームページURL等。 ・シラバス	
③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 本インスティテュートは理論と実践の組み合わせることによって教育成果を上げることをねらっているが、さらに効果をあげるために、前年度に引き続き、NPO法人を訪問した。今年度は障がい者の自立支援を行っているNPO法人「むく」を訪れ、具体的な活動内容、組織などについて学習した。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・該当なし(博士後期課程の設置なし)	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S A B
(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

該当なし（博士後期課程の設置なし）	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・該当なし	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
（～400 字程度まで）※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 NPO、協同組合、労働組合の基本を学生全員が学び、それを踏まえて各プログラムにおいて NPO、協同組合、労働組合を理論的かつ多面的に学ぶことのできる科目を提供している。それに加えて理論と同時に実践も学べるような講師陣によるプログラム横断的な科目「連帯社会とサードセクター」を提供している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし。	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
（～400 字程度まで）※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。 連帯社会、サードセクターについての海外の著名な研究者が来日した際には、連帯社会研究協力センターの協力を得て特別講演を依頼し、学生全員に参加を求めている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし。	
2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<b>【履修指導の体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。 ・新入生のガイダンスの際に修士論文を目標にした履修モデルをプログラムごとに指導している。 ・1 年次、2 年次にそれぞれ年 2 回実施する「研究報告」において、修士論文につながる研究テーマの発表、論文執筆の進捗状況などを報告させており、その際に、指導教授以外の教授もアドバイスを学生に与えている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし。	
②研究科（専攻）等として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<b>【研究指導計画の明示方法】</b> ※箇条書きで記入（ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す（学位取得までのロードマップの明示等））。 ・新入生のガイダンスの際に、「修士論文提出までのタイムスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」という 2 種類の資料を配布し、説明している。	
<b>【根拠資料】</b> ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。 ・「修士論文提出までのタイムスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
（～400 字程度まで）※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。 1 年次におけるゼミ、2 年次における論文指導で研究指導、学位論文指導を行っている。その上、1 年次、2 年次にそれぞれ「研究報告」を年 2 回一春と秋一開催し、修士論文につながる研究テーマの発表、論文執筆の進捗状況を発表させている。1 年生、2 年生ともに、また春秋ともに、いずれも 3 時間以上にわたる発表である。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし。	
④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。 ・3 人の専任教授がシラバスチェックを行っている。 ・記述式と選択式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施しており、シラバスに関する学生の意見も参考にしている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・「2016 年度授業改善のためのアンケート」	
⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記述式と選択式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施しており、シラバスに関する学生の意見も表明されており、それを参考にして検証している。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「2016年度授業改善のためのアンケート」</li> </ul>	
<p>2.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
<p><b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【学位論文審査基準の明示方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生のガイダンスの際に「修士論文の提出、審査体制、審査基準」を配布し、説明している。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※学位論文審査基準にあたる文書の名称および冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「修士論文の提出、審査体制、審査基準」</li> </ul>	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数で、審査は3人の専任教員が行うため、学位授与状況は容易に把握できる。ちなみに2016年度は大学院生13名全員に修士号を授与した。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連帯社会を担っていくのにふさわしい人材として育つよう2年間教育、指導を行った。</li> <li>・修士論文についても審査基準の一つとして「連帯社会にかかわる課題を適切に取り扱っていること」を掲げている。</li> <li>・各教授ともこの基準を念頭に研究報告、論文指導、論文審査を行った。</li> </ul>	
<p><b>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。上記の取り組みはいずれも2016年度に行われたものである。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p><b>【修士】</b> (～400字程度まで) ※責任体制および手続等の概要を記入。</p> <p>連帯社会を担っていくのにふさわしい人材として育つよう基礎科目、必修科目、選択必修科目を配置している。各プログラムの基礎科目を全員に学ばせ、また実践家を中心とした多彩な講師陣によるオムニバス授業「連帯社会とサードセクター」を必修科目としている。各教授はこの教育方針に沿ってゼミ、論文指導を行っている。修士論文に関してもこの教育方針のもと1年次、2年次に2度にわたる研究報告を開催し3人の教授が共同で責任を持つ体制を整えている。</p>	
<p><b>【博士】</b> (～400字程度まで) ※責任体制および手続等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入してください。</p> <p>該当せず</p>	
<p><b>【2016年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。上記の取り組みはいずれも2016年度に行われたものである。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協同組合プログラム、労働組合プログラムの学生は所属組織が判明しているので、特段把握する必要はない。NPOプログラムの学生は所属組織が判明している学生と、これからNPOを実践しようと考えている学生の2種類があり、前者につ</li> </ul>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>いては特段把握する必要はないが、後者については卒業後の進路は把握していない。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
<p>2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
<p>①学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。</p>	S A <input checked="" type="checkbox"/> B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入(取り組み例: アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。</p> <p>特に系統だった評価をしているわけではない。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし。</p>	
<p>2.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	
<p>①学習成果を組織的・定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入</p> <p>基礎科目、必修科目、選択必修科目については記述式と選択式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施している。各科目の調査結果を運営委員会で提示し、それを一つの資料として運営委員会および各教員が検証を行っている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「2016年度授業改善のためのアンケート」</p>	
<p>②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p>基礎科目、必修科目、選択必修科目について記述式と選択式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施している。各科目についての調査結果は運営委員会で提示し授業改善に向けての資料として有効活用している。また運営委員会メンバー以外の教員(非常勤講師も含む)に対しては、全体の調査結果(選択式の設問)と担当科目の調査結果をフィードバックしている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・「2016年度授業改善のためのアンケート」</p>	

## (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし。	

## (3) 現状の課題・今後の対応等(必須項目)

※(1)および(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<p>・教育の質を向上させていく努力は常に必要だと考えている。したがって、専任教員の率直な意見交換、授業改善アンケートの活用、講義を依頼する講師の選任、オムニバス授業「連帯社会とサードセクター」の内容、NPO法人の課外学習などの面で、今まで以上の努力をしていく必要があると感じている。</p>
--

## 【この基準の大学評価】

### ①方針の設定に関すること(2.1～2.2)

<p>連帯社会インスティテュートの学位授与方針は、明確に定められている。教育課程の編成・実施方針も、三つのプログラムごとに適切に設定されている。また、新入生ガイダンスにおいて、「修士論文提出までのスケジュール」「修士論文の提出、審査体制、審査基準」に関する書類が配布され、詳細に説明されている。</p>
---

### ②教育課程・教育内容に関すること(2.3)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

連帯社会インスティテュートは、三つのプログラムのコースワークが適切に設定され、理論と実践を組み合わせるとい  
うリサーチワークの観点から、昨年に引き続き NPO 法人（2016 年度は障がい者自立支援、NPO 法人「むく」）を訪れ、活動  
内容・組織などの学習を行っていることは評価できる。

連帯社会インスティテュートは、アドミッション・ポリシーとして「公共の新たな担い手の育成」という方針が明確で  
あり、カリキュラム編成からも、専門分野の高度化に対応し、グローバルの観点からの教育・研究が行われていることが  
伺える。また、グローバル化推進の取り組みとして、これまでに連帯社会、サードセクターについての海外の著名な研究  
者 3 名が特別講演を行っている。今後も引き続き、地域的視点とグローバルな視点が組み合わせられ、一層充実した教育が  
行われることを期待したい。

### ③教育方法に関すること (2.4)

連帯社会インスティテュートでは、新入生向けのガイダンスにおいて、「修士論文提出までのタイムスケジュール」と「修  
士論文の提出、審査体制、審査基準」が配布され、履修モデルとともに、学位論文作成へ向けての説明が為されている。ま  
た、1、2 年次におけるそれぞれ 2 回の「研究報告」などを通じて、学生の研究指導、学位論文指導は適切に行われてい  
る。

シラバスやそれに沿った授業の検証は専任教員間で行われている。

### ④学習成果・教育改善に関すること (2.5～2.7)

学位論文審査基準は、学生の入学時に周知されており、学位授与状況も適切に把握されている。

3 人の専任教員の共同責任体制のもと、きめ細やかな個人指導によって、学位水準は保たれていると判断される。

学位授与方針に明示した学生の学習成果は、把握・評価されていない。基礎科目、必修科目、選択必修科目については、  
記述式と選択式の設問をあわせた独自の授業評価アンケートを実施して、運営委員会で検討されるとともに、授業担当教  
員に周知されるなど、組織的に利用されている。

## 3 学生の受け入れ

### 【2017 年 5 月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

#### 【学生の受け入れ方針】

本インスティテュートが目指す人材の育成には幅広い視野と経験が欠かせない。NPO、協同組合、労働組合の活動に携わつ  
ている実践家を受け入れることを最優先に考え、加えて連帯社会、サードセクターに関心のある社会人を受け入れること  
も行っている。

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設  
定していますか。

はい  いいえ

3.2 学生の受け入れ方針に基づき学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施してい  
るか。

①学生の受け入れ方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備  
していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。

S  A B

(～200 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

協同組合プログラム、労働組合プログラムについては日本労働文化財団が指定する団体に推薦を依頼している。団体推  
薦で受験する学生と社会人一般応募枠で受験する学生の中から研究計画書および論文（またはそれに代わる文章）の審査、  
面接試験結果を踏まえて、入学者を選抜している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし。

3.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。

はい  いいえ

(～200 字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

協同組合プログラム、労働組合プログラムを選択する団体推薦の学生については定員を確保する努力をしており、定員  
をおおむね充足できている。ただ NPO プログラム、社会人一般入試については年によってバラツキが大きく、悩みの種で

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

ある。科目履修制度を活用して、本インスティテュートに関心を持ってもらうよう工夫をしているが、それ以外にもなんらかの対策を講じる必要があると考えている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし。

3.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S  A B

(～400字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

運営委員会、面接試験時などでの議論を通じて検証を行い、その結果を次年度に活かすよう努めている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし。

## (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

## (3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・NPOプログラムの受験者を一定程度確保するための広報活動等を充実することが必要ではないかと考えている。

## 【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートの学生の受け入れ方針は適切に設定され、社会人枠についても一般枠についても、受け入れ方針に基づく入学者選抜の制度や体制が適切に整備されている。協同組合プログラムと労働組合プログラムについては、団体推薦の活用により定員をおおむね充足できているが、NPOプログラムについては年によって応募者数にバラツキがあることが懸念事項として挙げられている。この点について、具体的な広報方策の検討が望まれる。

## 4 教員・教員組織

### 【2017年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい  いいえ

【執行部の構成、インスティテュート内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

・連帯社会インスティテュート運営委員会

運営委員長 中村圭介、副委員長 栗本昭、委員 柏木宏。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①研究科(専攻)等のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい  いいえ

(～400字程度まで) ※カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。

NPOプログラム、協同組合プログラム、労働組合プログラムの3つのプログラムを備え、学生にはプログラム横断的な学習をすることを求めるとともに、プログラムごとの専門性を高めることも求めている。そうすることによって連帯社会を担う人材を育成するよう努めている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

2016年度研究指導教員数一覧（専任）（2016年5月1日現在）

研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数
修士	3	3

4.3 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①研究科（専攻）等内のFD活動は適切に行われていますか。 S  A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

・運営委員会で以下のような取り組みを行っている。

【2016年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

・基礎科目、必修科目、選択必修科目については選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケート調査を実施し、各科目ごとの調査結果を運営委員会に提示し、それを資料として授業改善のための議論を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2016年度授業改善のためのアンケート

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし
-------

【この基準の大学評価】

連帯社会インスティテュートでは、三つのプログラムそれぞれに1名の専任教員が配され、これら3名の専任教員から構成される運営委員会が、組織的な教育の実施の責任を担っている。FD活動については、選択式と記述式の設問を合わせた独自の授業評価アンケートが行われており、評価できる。

5 学生支援

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①研究科（専攻）等として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。 S  A B

(～400字程度まで) ※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。

2015年度、2016年度には中国人留学生1人が在学しており日本人学生、指導教授が総力をあげてサポートをしたが、2017年度は留学生はいない。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

2016年度は中国人留学生1名が在学しており、日本人学生と指導教授によるサポートが行われた。2017年度は留学生は在学していないが、今後留学生が入学することを想定し、修学支援の制度化が図られることを期待したい。

IV 2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準		教員・教員組織
現状の課題・今後の対応等		インスティテュートの学生数が少ないため、学生評価者が特定できる可能性があるため、アンケートに向かない科目があるが、それを補う形の評価方法を試みている。
年度末報告	執行部による点検・評価	連帯社会研究交流センターの協力を得て、必修科目、選択必修科目について記述式と選択式の両方を含む授業アンケート調査を実施し、その全結果を各教員に配布した。
評価基準		教育方法
現状の課題・今後の対応等		インスティテュートが発足間もないので、方針面があるが、早急に評価と成果を対応させ、確定していく必要性に迫られている。
年度末報告	執行部による点検・評価	NPOプログラム、協同組合プログラム、労働組合プログラムを横断的に学び、「連帯社会とサードセクター」を受講することによって視野を広げ、自らの選んだプログラムで専門性を高めるとの方針で教育を進めてきた。この教育目標はこの2年間で相応の成果を得たと確信している。必修科目、選択必修科目について記述式と選択式の両方を含む授業アンケート調査を実施し、その結果を授業および授業方法に反映するよう努めた。修士論文に関しては修士論文のタイムスケジュールおよび審査体制と審査基準を学生に示し、年に2回、修士論文の執筆状況を報告する研究報告を1年次、2年次に開催し修士論文執筆に向け学生を指導してきた。少人数であることもあり懇切丁寧な個別指導を行うことができ、全員に修士号を授与することができた。

【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

インスティテュート独自の記述式と選択式を組み合わせた独自の授業評価アンケートを作成・実施し、またきめ細やかな修士論文作成の指導を行っている点は評価できる。

【大学評価総評】

連帯社会インスティテュートは、設立間もないにもかかわらず、明確な三つのポリシーをもち、3名の専任教員と学部横断的な協力により、特色ある三つのプログラムを有している。それぞれのプログラムで、理論と実践を組み合わせたカリキュラムを設定し、きめ細かい修士論文指導が行われていることは、高く評価できる。今後はインスティテュートとしての定着期に入ると考えられるので、グローバル化に伴うカリキュラムの一層の充実、内部質保証への対応や外国人学生への門戸の拡大などが検討されることを期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。